

令和元年度新宿区外部評価委員会第1部会 第9回会議概要

<開催日>

令和元年8月26日（月）

<場所>

本庁舎地下1階 11 会議室

<出席者>

外部評価委員（5名）

星卓志、板本由恵、齋藤朗、野澤秀雄、藤川裕子

事務局（3名）

金子行政管理課長、池田主査、原田主任

<開会>

【部会長】

皆さんおはようございます。

ただ今から令和元年度第9回新宿区外部評価委員会第1部会を開催します。

前回の続きとして、個別施策Ⅱ－2「災害に強い体制づくり」と個別施策Ⅲ－9「資源循環型社会の構築」について、評価の取りまとめを行います。

はじめに、個別施策Ⅱ－2「災害に強い体制づくり」について、施策評価の取りまとめを行います。次に、個別施策Ⅲ－9「資源循環型社会の構築」について、計画事業84「ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進」、意見のあった経常事業を順番に取りまとめを行います。

それでは、個別施策Ⅱ－2「災害に強い体制づくり」の施策評価についてです。

「総合評価」は、「順調に進んでいる」と「おおむね順調に進んでいる」に評価が分かれています。「順調に進んでいる」と評価した委員から順番にご意見ををお願いします。

【委員】

私は、「順調に進んでいる」と評価しました。

個別施策Ⅱ－2「災害に強い体制づくり」における取組については、区においても、阪神淡路大震災のときから十分に体制が整ってきていると思います。災害に向けた体制づくりというものには終わりがないので、今後も工夫しながら取り組んでほしいと思い、期待の意味も込めて「順調に進んでいる」と評価しました。

【委員】

私は、「順調に進んでいる」と評価しました。

災害というものは、実際に経験しないとなかなか危機感を持つことが難しく、防災訓練などもマンネリ化してしまう傾向にあると思います。その中で、防災について多世代に呼び掛け、少しずつでも防災訓練の参加人数を増やしているのではないかと思います。ただ、やはり町会・自治会の加入者の減少や担い手の高齢化などの問題もありますので、地域コミュニティの活性化が必要なのではないかと思います。地域の活性化を図るとともに、地域の防災力の底上げをしていくための手助けを、区として行ってほしいと思います。

【部会長】

私は、「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。

予定していた取組については、着実に実施していると評価します。しかし、施策全体として防災に強い体制づくりということを目指していますが、実際に地域防災の担い手を育成し、その人たちが活動できるようになっているのか、あるいは、地域防災についての何かの体制ができたのかということについては、道半ばであると理解しました。やはり、防災の問題については、いろいろな面で自助・共助の取組に委ねなければ、公助だけでは対応できませんので、体制づくりという点については、もう少し努力する必要があるのではないかと思います。

【委員】

私は、「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。

「しんじゅく防災フェスタ2018」は、集客も多く成功していると思いますし、要配慮者災害用セルフプランについても非常に良くできていると思います。しかし、マンション等集合住宅における自主防災組織の取組については、まだあまり周知されていなくその数も非常に少ないのではないかと思いますので、今後も工夫して取り組んでほしいと思います。

【委員】

私は、「おおむね順調に進んでいる」と評価しました。

区民に対する取組は順調に進んでいると思いますが、在学・在勤者、来街者、あるいは、新宿駅を利用する人などの区民ではない人に対する対策というのは、必ずしも十分に取り組んでいると言えないのではないかと思います。

【部会長】

ありがとうございます。

では、第1部会の評価として、「順調に進んでいる」とするか「おおむね順調に進んでいるか」とするかについて、議論をしていきたいと思います。

【委員】

「おおむね順調に進んでいる」という評価は、ある意味では、順調に進んでいるとはいえない点があるということになると思います。今、皆さんの意見を聞いて、マンション防災や帰宅困難者対策など、やはり課題があるのではないかと思います。

【委員】

本施策の目的は、「高度防災都市化の実現に向け、区民一人ひとりの防災意識を高めるとともに、区民との協働により、地域防災力の向上や防災都市づくりに取り組み、災害に強い、逃

げないですむ安全なまちをめざします。」というものです。やはり、区民一人ひとりの防災意識を高め、自分たちのまちは自分たちで守るんだという思いを持つ区民を増やしていくことが重要であると思います。地域防災力の向上、人づくりということが、本施策において大事なのであれば、その点についての取組は十分とは言えないのではないかと思います。

【部会長】

計画事業については、全て「計画どおり」と評価しました。実行計画に基づく計画があり、その進捗を外部評価委員会として確認しています。各計画事業においては、予定どおりできなかった、取組が遅くなったということは特段なかったため「計画どおり」と評価し、その上で、このような取組も必要ではないか、更に努力してほしいという指摘をしています、

そして、その総体としての個別施策の評価について、今議論しているということです。施策評価については、個別の事業がどのように取り組んでいたかということではなく、個別施策のめざすまちの姿に向けて、本当にそれが実現できるような方向に進んでいるのか、進んでいるとしても順調なのかどうかということを考えていく必要があると思います。

私の意見は、先程も述べたように、災害に強い体制をつくるという意味ではまだ道半ばであると思いますので、「おおむね順調に進んでいる」と評価したいと思います。

【委員】

その意味で考えると、計画事業についてもこうしてほしいということを指摘をした部分がありましたので、「おおむね順調に進んでいる」という評価で良いと思います。

【部会長】

では、「総合評価」は「おおむね順調に進んでいる」という評価でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、そのようにさせていただきます。

「総合評価」の意見については、先程出たご意見を中心にまとめていきたいと思います。

【委員】

個別施策を構成する各事業は、確実に実施しており順調であるけれども、また十分ではない部分もあるので、結果として「おおむね順調に進んでいる」と評価するような記載にしていただけだと思います。

【部会長】

分かりました。

次に、「取組の方向性に対する意見」についてです。順番にご意見をお願いします。

【委員】

新宿区の場合は、住民の異動が激しく、常に転入者がいるような状況です。新しく新宿区に住む方は、区の防災については初心者です。そのため、防災対策については、あまり専門的なものばかり実施するのではなく、初心者を対象とした防災対策の取組を繰り返し行い普及啓発していくことが重要だと思います。

【委員】

防災訓練は、毎年度、毎回、同じことを行っています。繰り返し訓練を行うことも重要であると思いますが、毎回参加してくれる方はマンネリ化してしまうこともあると思うので、その点についても工夫が必要ではないかと思います。

【部会長】

先程の意見とどう折り合いをつけるかですね。繰り返し訓練を行うことが必要である一方で、マンネリ化してしまうということです。どのように工夫していくのが重要ですね。

【委員】

そうですね。

今、考えていることですが、基本的に防災訓練は昼間に実施していることが多いので、例えば、土曜日や日曜日に実施する、早朝や夜間に実施する、夕食時に実施するなど、もう少し幅広い時間等で実施することを検討しても良いのではないのでしょうか。

【委員】

土日や夜間に防災訓練を実施するという意見は良いと思います。いろいろな時間や日程で実施することで、新しい住民の方や防災訓練に参加したことがない方も参加しやすくなるということがあるのではないかと思います。防災訓練は、どうしてもマンネリ化してしまう傾向がありますが、それでも地道に実施する、1回でも参加してもらうということにとっても意義があることではないかと思います。

【部会長】

区としても発災時にはスムーズに避難所を開設する必要があり、そして、避難所の開設を地域住民の方をお願いしているということがあるので、防災訓練をもう少し多様な形で実施したほうが良いのではないかという指摘は、本個別施策において重要なことだと思います。

【委員】

夜中に災害が発生する可能性も十分にありますが、その対応についてはあまり取り組めていないと思います。毎回夜間に防災訓練を実施する必要はないと思いますが、災害がいつ起こるか分からないという実態を踏まえた上で、昼間以外の時間帯に防災訓練を実施する必要性は高いのではないかと思います。

【部会長】

そうですね。

では、「取組の方向性に対する意見」については、今出たご意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

それでは、個別施策Ⅱ-2「災害に強い体制づくり」についての取りまとめは以上とします。次に、個別施策Ⅲ-9「資源循環型社会の構築」についての取りまとめを行います。

まず、計画事業84「ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進」についてです。

「総合評価」は、「計画どおり」で意見が一致していますので、第1部会としては「計画どおり」という評価でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ありがとうございます。

では、「総合評価」の意見について議論していきたいと思います。

私の意見ですが、様々な取組により、ごみ処理量が着実に減少していると評価しました。

【委員】

私も、すごく順調に進んでいると思って評価しました。ごみ処理量もここ数年来、順調に減少しているので、そのことも評価したいと思います。しかし、食品ロス削減協力店については、まだ始めたばかりということもあり、登録店舗数が少ないので更なる普及を望みます。

【委員】

金属・陶器・ガラスごみからの資源回収業務を民間業者に委託したことで大きな成果を生むことができた点、食品ロス削減協力店登録制度やフードドライブの実施によりごみの発生抑制に対する重要性を啓発できた点について評価したいと思います。

【委員】

個別の話になりますが、資源ごみの回収を小型トラックにより行い、さらに新宿中継・資源センターにおける資源回収を行うなど、資源回収について非常に効果を上げていると思います。

【部会長】

皆さん、評価する内容のご意見だったかと思います。

では、「総合評価」の意見については、取組は評価できるので、引き続き取り組んでくださいという内容を記載するというところでよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次に、「前回の行政評価を踏まえた取組に対する意見」についてです。順番にご意見を願います。

【委員】

資源ごみの回収作業については、拠点回収から戸別回収に移行したことで、約2倍の回収量となったという点については非常に良いことだと思います。しかし、戸別回収の際には、各家庭でレジ袋等の袋に入れて資源ごみを出すこととなり、レジ袋削減の取組と矛盾するのではないかと感じます。

【委員】

資源ごみの回収量が増えたということで、成果を上げていると思います。

【委員】

私も、資源ごみの回収量が増加したということで、非常に効果がある取組を進めていると思います。

【部会長】

何か課題があるという意見を書くとすれば、レジ袋削減の話かと思います。

【委員】

これまでレジ袋をもらっていなかった人も、資源ごみを分別するためにレジ袋をもらうようになったという話を聞いたことがあります。

【委員】

以前はごみ集積所などにびんや缶などのコンテナがあり、そこに資源ごみを入れて地域ごとに回収していました。しかし、現在は戸別回収となったので、各家庭が資源ごみを種類ごとに分けてレジ袋などに入れて回収してもらうようになっている状況です。

【委員】

資源ごみの回収については、行政回収とは別に集団回収もあり、集団回収の場合は、団体ごとに回収場所を決めて1か所に集めて回収するようになります。

【委員】

資源ごみの回収に当たり、集団回収に取り組む方が増えれば、レジ袋の問題も解決できるということですね。

【委員】

集団回収は自主的な取組で、団体として区に届出をしなくてはいけないということもあり、これまでの拠点回収のほうが良いという方もいます。

【委員】

ただ、以前の拠点回収のときは、誰が出したごみか分からないということで分別をきちんとしていなかったものが、戸別回収としたことで、周りの目があるということもあり、しっかり分別して出すようになったということもあると思います。

【部会長】

少し整理したいと思います。

資源ごみの回収に当たって、戸別回収になったため自分の戸口に袋に入れて資源ごみを出します。そのために、買い物をしたときにレジ袋をもらう人が少なからずいる、それはレジ袋削減ということと逆行することにつながっている面があるので工夫が必要ではないかという話です。

その工夫について、何らかのアイディアはあるのでしょうか。外部評価意見とするのであれば、何かしらの具体的な取組をヒントとして示唆したいと思います。

【委員】

区としては、資源ごみの回収に当たっては、行政回収ではなく集団回収のほうに移行していきたいということがあるのだと思います。

【部会長】

意見としては、集団回収を増やす努力をしてくださいとしたほうが良いかもしれません。

【委員】

そうですね。

【委員】

レジ袋を使わないようなアイデアを具体的に提示することは難しいと思います。

【委員】

やはり集団回収を増やしていくという方向性が良いと思います。

【部会長】

集団回収の取組を促進することはすごく効果があると思います。今の議論もそうですし、実際に収集する作業員の方の手間も飛躍的に違うと思います。

集団回収の促進に当たっては、区としてもかなり努力されていると思いますし、ごみ収集作業全体として、戸別化を図り、サービス水準も非常に上げてきていると思います。行政として手間をかける方向に努力され、その取組が功を奏して、ごみ処理量がかなり減っているという事実があります。これまでずっと努力されてきたことではありますが、行政がどんどん細かく対応していくということについては、私は少し危惧しており、どこかで必ず限界が来るのではないかと思います。そのため、家庭などの発生側がごみの発生を抑制していかないといけないのだと思います。この点については、全体論として後程議論したいと思います。

では、「前回の行政評価を踏まえた取組に対する意見」については、集団回収に関する意見を付すということによろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

次に、「令和元年度取組方針に対する意見」についてです。

私の意見ですが、資源化については大きく効果を上げている中において、ごみの発生抑制の推進がより重要な取組であり、一般家庭への直接的な意識啓発ということが大事ではないかと思っています。

【委員】

ごみ減量に向けての取組は、以前はリサイクルのみだったものが、発生抑制やリユースという視点のものも増えており、非常に良いことだと思います。その中で、現在出てきている考え方として、ごみを断ろうというリフューズものがあります。買い物をした際などにごみとなるものは要りませんと断るということであり、このリフューズについてももう少しPRをしてほしいと思います。

【部会長】

リフューズというのは、リデュースとどのように違うのでしょうか。

【委員】

リデュースは、できるだけごみになるものを買わないというような取組ですが、リフューズは、ごみになるものは要りませんと断るという取組です。

【部会長】

分かりました。

【委員】

店舗が過剰な在庫を持たないようにするというこも、食品ロスの削減につながる可能性があるのではないかと思います。

【委員】

食品ロス削減協力店登録制度については、まだ登録店舗数が少ないことと、目標とする店舗数も含めて今後どのように展開していくかということを期待したいと思います。

【委員】

ごみの発生抑制についてですが、現在、資源回収では布の回収は行っていないので、検討してほしいと思います。また、現在回収している資源ごみについても、様々な場所にエコステーションなどを設置し、より区民がリサイクルしやすい環境をつくるということも必要ではないかと思います。

【部会長】

様々な意見がありましたが、全体としては、これまでも努力されています、しかし、もう少し頑張してほしい部分もあるという内容かと思います。そのような形でまとめてよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

では、計画事業84「ごみ発生抑制を基本とするごみの減量とリサイクルの推進」の取りまとめは以上です。

次に、経常事業についての取りまとめです。

私からですが、経常事業514「ごみの発生抑制に向けた普及啓発」についてです。

リデュースのための区民の行動を促進することが重要であることから、より積極的に発生元となる人々への普及啓発をしていくべきではないかと思います。先程からいろいろ議論があり、いくつか意見もありましたが、やはりごみの発生抑制の普及啓発ということをもう少し力を入れて取り組んでも良いのではないかと思います。

新宿中継・資源センターに現地視察に行った際、地区の小学生の施設見学を受け入れているというお話がありました。もちろん、幼いころからごみ減量についての意識を持つことは非常に重要ではありますが、あれほど丁寧に細かく資源回収作業をしているということは大人でも知らないと思います。やはり知ることによって、ちゃんと分別しよう、ごみの排出量を減らそうという意識が生まれますので、施設見学に限らずですが、普及啓発の取組はより積極的に行っていったほうが良いと思います。

【委員】

私も、区が一生懸命努力されている取組について、より積極的に情報発信してほしいと思います。実際の取組を知ることによって区民の心を打つということもあると思うのでパンフレットの配

布だけではなく、もう少し違うアプローチでの普及啓発、インパクトのある普及啓発ができれば良いと思います。

【部会長】

普及啓発に向けた新しい取組も含めてということですね。

【委員】

そうですね。

【部会長】

では、経常事業514「ごみの発生抑制に向けた普及啓発」については、今出た意見を中心にまとめるような形でよろしいでしょうか。

<異議なし>

【部会長】

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

経常事業518「本庁舎以外の区施設の資源回収」についてです。

私の住んでいる地区の地域センターでは、紙等の資源ごみも含めて、自分たちで出したごみは全て自分たちで持ち帰ることとなっています。区で資源ごみを回収しているのであれば、回収拠点のような形で回収場所を設置すれば資源ごみの回収率が上がるのではないかと思います。

【部会長】

経常事業取組状況シートの資源回収対象施設の中には、地域センターは入っていないということでしょうか。

【委員】

本事業は、地域センターの事務で出た資源ごみは回収しますが、地域センターの利用者が出したごみについては回収しません。

【部会長】

経常事業518「本庁舎以外の区施設の資源回収」については、あくまで区の事務で出た資源ごみの回収の話ということですね。

【委員】

そうですね。本事業に対する意見としては、そぐわないかもしれません。

【部会長】

本事業に対する意見ではないですね。

今のご意見は資源回収の充実の話であり、区民が出す資源ごみをどこで回収するかという話です。基本的には、事業所は事業所で、個人は個人でそれぞれ回収の仕組みがありますが、ご意見は、地域センターを利用した際に出た資源ごみをその場で回収してほしいという内容かと思っています。

【委員】

資源として回収できるごみに関しては、エコステーションのようなものを設置して、地域セ

ンターも資源ごみの回収拠点とすれば良いのではないかと思います。資源ごみの回収は、1週間や2週間に1回しかありませんので、そのことで分別せずにごみとして出してしまうのであれば、資源ごみの回収拠点をつくって、身近な場所で簡単にらせるようにしていければと思います。

【部会長】

ご意見としては、公共施設で資源回収をするべきだという話だと思います。ごみを持ち帰って燃えるごみとして排出されることになるよりも、その場で回収することができれば資源化率が上がるのではないかという意見かと思います。

【委員】

地域センターであれば、子どもが利用することも多いので、子どもにとっても分かりやすく分別できるのではないかと思います。

【部会長】

公共施設で資源回収をできるようにしてきちんと分別してくださいということと、自分で持ち帰って自己責任で処理してくださいというのとどちらが正しいのかということが悩ましい問題なのではないかと思います。

大事なポイントは、きめ細かくいろいろなところで資源回収できるようにすることと、ごみは自分で持ち帰って適切に処理してもらうようにすることの、どちらがごみの量を少なくすることができるかという点だと思います。例えば、ペットボトルをどこでも捨てられるようにするよりも、なかなか捨てられないほうが、自分の水筒を持ってくるなどによりごみが減るということも考えられます。

そのため、丁寧にどこでも資源回収できるまちにしていくということが正しい方向なのかという疑問があります。個人の負担が減るということは、そのコストをどこかが負担することになり、この場合は行政が負担するという話になります。

【委員】

そこまでを区が負担すべきなのかどうかということですね。

【部会長】

非常に大事な点であり、基本理念のような話になりますが、資源循環型社会の構築に向けて、これまでも区としてかなり丁寧に、細かく、手厚く取組を行ってきています。その上で、今後どのように取り組んでいくべきかという基本の方向性として、更に区が手厚くきめ細かく資源化ということに努力して取り組むべきであるとするのか、個人の意識、あるいは発生元を減らしていくということの取組にもっと力を入れるべきであるとするのか、ということを実部会の意見として決めていきたいと思っています。

【委員】

現在も使用済み小型電子機器等については、専用の回収ボックスを設けています。そういったところで資源ごみも回収できるようにすれば、資源の回収率は上がるのではないのでしょうか。

【部会長】

もちろん、資源を回収できる場所が増えれば、資源の回収率は高くなると思います。しかし一方で、サービスを手厚くすればするほど、ごみ発生抑制ということに対する個人のモチベーションは下がってしまうということもあるのではないかと思います。

【委員】

日常的に地域センターを利用する人は良いと思うのですが、そのような施設を利用しない人のほうが圧倒的に多いのではないかと思います。そういった人たちが、資源ごみを捨てるためにわざわざ地域センターに行くかというところではないと思いますので、どれくらい資源回収率が上がるのかということも難しいように思います。

【委員】

いつでもごみを捨てられるというほうが確かに便利だと思いますが、回収場所がなければ各自で工夫するようになるのではないかと思います。

【部会長】

難しい問題ですね。全体の論点にも関わってくるので、後程改めて議論したいと思います。

今の内容は、経常事業518「本庁舎以外の区施設の資源回収」の論点ではありませんので、本事業については、意見を付さなくて良いと思います。

ほかにいかがでしょうか。

【委員】

経常事業520「新宿中継・資源センターの管理運営」についてです。

非常に良い取組をしているので、施設見学の機会をもっと増やしても良いのではないかと思います。

【部会長】

これは先程の経常事業514「ごみの発生抑制に向けた普及啓発」の意見にまとめてよろしいですか。

【委員】

分かりました。

【委員】

経常事業521「リサイクル活動センターの管理運営」についてです。

リサイクル活動センターのリユース事業が非常に好評なので、特別出張所のロビーなどを活用して、実施場所を広げることも検討しては良いのではないかと思います。

【部会長】

フリーマーケットなどのリユース事業の実施場所の拡大ということですが、これはリサイクル活動センターの活動の一環として増やしてほしいということですか。

【委員】

フリーマーケットの開催については、場所を管理している団体が主催していると思うので、特別出張所で実施するとなるとリサイクル活動センターの活動の範囲ではないのではないのでしょうか。

【委員】

リサイクル活動センター以外にもフリーマーケットを実施している施設はありますし、それはそれぞれの場所ごとの運営で実施していると思います。

【部会長】

それぞれが主体的に実施しているということですね。

本事業の内容ではないと思いますので、意見としなくて良いですか。

【委員】

分かりました。

【部会長】

では、経常事業についての意見の取りまとめは以上です。

時間となりましたので、本日の部会は以上で閉会としたいと思います。

お疲れさまでした。

<閉会>